

月にみがきて



8月



更級小学校だよりNo. 5

H25. 8. 30

2学期が始って 2週間

2学期が始まって2週間。先週は水泳参観が行われました。まだまだ暑い日が続きます。そんな中で、最後の水泳の授業が行われるとともに運動会へ向けて準備が始まりました。少し遅れましたが、2学期始業式の校長講話と学校生活の様子、戸倉上山田地区の健全育成を進める会についてお伝えします。



2学期始業式 校長講話

2学期の目標を2年生、4年生、5年生の皆さんが発表してくれました。それぞれ1学期を振り返って、2学期のしっかりした目標で大変感心しました。忘れないで目標を持ち続けて努力しましょう。

さて、この暑い夏休み中にこんな花が咲きました。
何の花か分かりますか。

もう少し全体を見ると分かるでしょうか。

そのとおり、これは茗荷の花です。おそばや冷や麦を食べるとき、薬味としてながネギなどと一緒に添えられることがあります。また、茗荷の甘酢漬けなどもあります。

この茗荷は漢字で書くとこんな字を書きます。

きょうは茗荷のお話をします。



今から2500年くらい前、お釈迦様がインドの祇園精舎でお弟子たちを教えていたころ、お弟子のなかに周梨槃特(すりはんどく)という人がいました。周梨槃特は兄と共にお釈迦さまの弟子になったものの、物覚えが極端に悪くて、お経の一行も覚えられません。自分の名前さえ忘れてしまい、名札をお釈迦様に首にかけてもらうくらいです。自分のあまりの愚かさを嘆いた周梨槃特はお釈迦さまに破門(もうやめさせてください)を願い出ました。しかしお釈迦さまは

「自らの愚かさに気付いたのだから、お前はもう愚か者ではない」と諭されました。そして、箒とちり取りを与えて、

「周梨槃特よ、お前はお経を覚えなくてよい。その代わりに、これで毎日修行場の掃除をしろ。ただし、掃除のあいだ『塵を払え』と唱え続けなさい。これならなんとか覚えられますよ」と教えられました。

周梨槃特はその日から毎日毎日、お坊さん達が修行する場所の隅から隅まで掃除を続け、一心に「塵を払え、塵を払え、……」と唱え続けました。そしてある時、お釈迦さまから「塵には眼に見えるものと眼に見えないものとがあるのですよ」と教えられて、ほんとうに払うべきものは自分の心の中の塵だ、と気がきます。

こうして周梨槃特は霧が晴れたように悟りをえて、兄や他の頭のよいお坊さんより早く仏様の心を体得し、尊者となりました。

周梨槃特が死んだあと、墓のまわりに生えた草を「彼は自分の名前を荷なって苦労してきた」ということで、「名」を「荷なう」ことから、名の字に艸(くさかんむり)を付けて、この草を茗荷(ミョウガ)と名付け、ミョウガは悟りのシンボルになりました。

また、周梨槃特の霊は、摩陀羅神(またらじん)という仏道修行者を守る神になったということです。周梨槃特は自分の名前も忘れてしまう人でしたが、くじけずあきらめないで一つのことをやり遂げ大きな悟りを得て、立派なお坊さんになりました。2学期も次のことを頭に置いて、それぞれの目標に向かってがんばりましょう。

①自分からすすんで挨拶しましょう



②外でしっかり遊びましょう。

③他の人の話をしっかり聞き自分の気持ちや考えをしっかり話せるようにしましょう

夏休み中、更級小学校のみなさんは交通事故がありませんでした。みなさんがきちんと約束を守ってくれたお陰だと思います。これからも心の油断をしないように、交通ルールをきちんと守って事件や事故に遭わないようにしましょう。

そして、みんなの力で、楽しい学校生活を送りましょう。

最後の水泳・・・そして、運動会に向けて



朝夕がだいぶ涼しくなりましたが、日中はまだまだ暑い日が続きます。最後の水泳学習で、距離に挑戦する6年生の泳ぎがありました。目標をペアで確認し合い100mを最長にじぶんの力を試す時間。どの子も自分に挑戦し伸そうとしています。

今年の水泳のまとめです。各学年、子どもたちは最後の水泳の時間を楽しんでいます。

今週はいよいよ運動会の練習が少しづつ始まりました。



5, 6年生の組み体操の練習も始まりました。今年はどうんな組み体操を見せてくれるのでしょうか。それまでの練習の中にある子どもたちの様々な学習が、きっと本番の組み体操に輝きを与えることと思います。

21日、28日には全校で校庭の草取りも行いました。夏休み前にだいぶ草取りをがんばってきたので、全校でがんばるとほとんど草がない状態にすることができました。子どもたちの頑張りが光ります。



平成25年度

子どもの健全育成を進める会

8月24日(土)千曲市戸倉創造館において、上記の会が午後行われました。本校からもPTA会長さんの堀口さんをはじめ、たくさんのPTA会員のみなさんが参加されました。講演会ではNPO法人子どもとメディア代表理事の清川輝基先生が『『メディア漬け』で壊れる子どもたち』と題して講演されました。現代の電子映像メディアに生まれたときから慣れ



親しんだ子どもたちがその身体的成長、精神的成長の過程でどのような影響を受けているかを数々のデータをもとにお話いただきました。特に、平面画面を見続ける子どもたちの視力の発達への影響、外遊びの減少による脚力の発達への影響、諸外国に比べて自己肯定感の低い日本の高校生の統計など衝撃的なお話が続きました。その後の分散会でも小中学生のお子さんを持つお家の方々から、今はやりのLINEに関するお家での子どもたちの様子やゲームやテレビに没頭する姿など危惧する声も聞かれました。子どもたちに情報モラルを教え、電子映像メディアとどう賢くつきあっていくか子どもも大人も直面している問題であることを改めて考えさせられました。

<左は野本さんにいただいた牛乳パックにいたたトルコキキョウ、すすきです。>

